展示のご案内

会場：本部総合庁舎 1 階展示室 / 時間：10〜17 時

常設展　令和 4 年 4 月 2 日ー令和 6 年 2 月 28 日

「資料とともにたどる金光大神のご生涯」

常設展　令和 4 年 12 月 11 日ー令和 5 年 11 月 30 日

「令和 4 年度 物故布教功労者御遺影展」

樋口一郎《立教聖場》(部分) 油彩・カンバス 本館蔵［常設展］

NEW 収蔵庫企画展　令和 5 年 4 月 1 日ー 8 月 31 日

「創立 80 周年 金光図書館あゆみの小片（かけら）〜折々の人とコト〜」

左）金光図書館旧館と落成した本部総合庁舎　昭和 58 年（1983）撮影
右）金光碧水《開館記念品 文鎮》金光焼 本館像

金光図書館
〒719-0111 岡山県浅口市金光町大谷 320
TEL: 0865-42-2054　FAX: 0865-42-3134
E-mail: konko-library@konkokyo.or.jp

収蔵庫企画展

「創立 80 周年 金光図書館あゆみの小片〜折々の人とコト〜」

第 2 次世界大戦末期の 1943 年（昭和 18）に、「読みたい、調べたいという願いをもって来る人の願いが果たせるようお世話をする」という願いのもとに創立された金光図書館は、今年創立 80 周年を迎えます。本展はその 80 年にわたる歴史の中から、本館の図書館活動が豊かなものになるよう寄与した知識人や文化人をとりあげ、彼らが利用者サービスや地域文化の醸成に残した足跡を、当時の図書館活動の様子を撮影した貴重な写真とともに、それらに関連する考古資料や書跡、直筆原稿、出版書籍等を併せて展示します。

本展で提示するのは、金光図書館のこれまでの歩みの中のほんの一部の小片（かけら）ですが、“折々の人とコト” に思いをはせてもらうことで、本館の活動を支えてきた先人たちを顕彰するとともに、展覧会をご覧いただく方々に本館が歩んだ 80 年の歴史を感じ取っていただき、金光図書館をより身近に感じて欲しいという気持ちを込めて企画するものです。

【展示資料（一部）】

《金光図書館最初の建物》
昭和 18 年（1943）撮影

《金光図書館報『土』第一号》
本館蔵

《館報『土』「発刊の辞」（複製）》

金光碧水《開館記念品 文鎮》金光焼 本館蔵

《高島遺跡出土品（縄文土器［晩期］破片）》本館蔵

金森徳次郎《向上無限》紙本墨書 本館蔵

柳宗悦《打テヤモロ手ヲ》
色紙に墨書 本館蔵

石井桃子《「児童図書館の条件」》原稿 本館蔵

《金光図書館旧館 1 階児童室の様子》
昭和 52 年（1977）撮影

常設展

「令和 4 年度 物故布教功労者御遺影展」

本展は、お道の御用に尽くされた布教功労者のご霊神様方のお徳をしのばせていただき、長年にわたるお働きに御礼を申し上げるものです。令和 4 年の布教功労者奉斎霊神 89 柱のうち、ご遺族からご提供いただいた御遺影を展示しています。

令和 4 年度 物故布教功労者御遺影展の様子

金光図書館 利用案内

◯ 開館時間

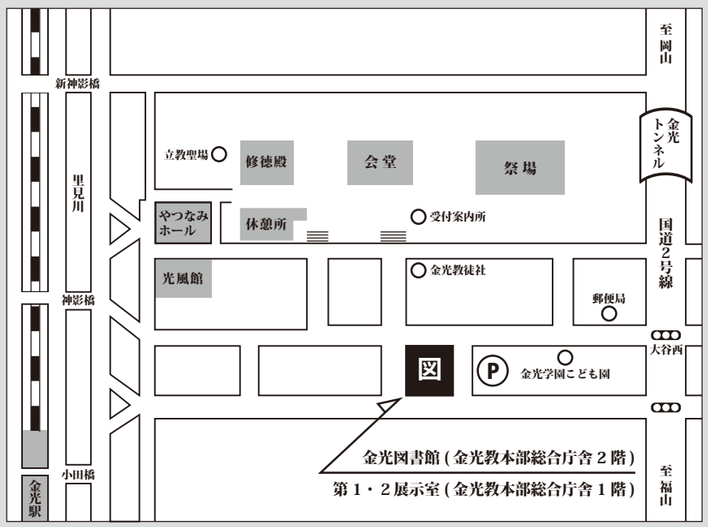
- 午前 10 時から午後 6 時まで
- 金曜日のみ午後 12 時 30 分から午後 6 時まで

◯ 休館日

- 毎週月曜日
- 国民の祝・休日
- 創立記念日（9 月 8 日）
- 年末年始（12 月 23 日から 1 月 3 日まで）
- 休館の変更・臨時休館はその都度ウェブサイト等で告知します。

◯金光図書館 交通案内

JR 山陽本線 金光駅から徒歩 10 分 / 山陽自動車道 鴨方 IC から車で 10 分



常設展

資料とともにたどる金光大神のご生涯

このお道は、いついかなる時も、信心において「変わらない、大切なものは何か」を、神様の「仰せどおり」に、「人が助かりさえすれば」と御取次下された金光大神の御姿に求めつつ、ここまでの歩みを重ねてきました。

この常設展では、文化 11 年（1814）のご出生から明治 16 年（1883）のご帰幽までのご生涯を、「金光大神御覚書」、「金光大神年譜帳」、「お知らせ事覚帳」等の文書資料や、収蔵庫に収められている博物館資料を用いて紹介します。

具体的には、教祖伝『金光大神』、『金光教年表』、「金光大神年譜帳」等をもとに金光大神の年譜を作成し、その内容を第１～６期に分けて示しています。

この展覧会が、神様の「仰せどおり」に歩まれた金光大神の御姿とそのご内容を求める機会になればと願っています。

第 1 期 生い立ち

【対象時期】1 歳 : 文化 11 年 (1814) ～ 23 歳 : 天保 7 年 (1836)

出生から、家督相続・結婚まで。大谷村川手家への養子入り後、養父母の慈しみを受けながら、一家を担う青年として生い立つ過程を追っています。なお、絵画「大宮神社」は、金光大神出生日が同神社の祭礼日であったことにちなんでいます。

樋口一郎《大宮神社》油彩・カンバス 本館蔵

樋口一郎《小野氏の旧邸》油彩・カンバス 本館蔵

第 2 期 神との出会い

【対象時期】24 歳 : 天保 8 年 (1837) ～ 42 歳 : 安政 2 年 (1855)

家督相続から「42 歳の大患」の経験まで。子どもたちをめぐる喜びと悲しみに直面しながら、一家の暮らしを担い、手を尽くして生きる姿とともに、神との出会いを通して、無礼に気づき、助けられる様子を示しています。

樋口一郎《沼名前神社》油彩・カンバス 本館蔵

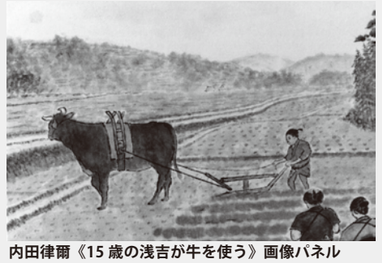
樋口一郎《西大寺観音院》油彩・カンバス 本館蔵

第 3 期 神の頼みを受けて

【対象時期】43 歳 : 安政 3 年 (1856) ～ 50 歳 : 文久 3 年 (1863)

神の頼みはじめ、「立教神伝」から広前奉仕初期のころまで。養父の面影をたどるかのごとく三男延治郎を連れての宮参り、実弟香取繁右衛門をとおして金神の宮の建築に始まる神からの頼み、七墓つかされた理由を知らされるなど深まりゆく神との関係、そして「立教神伝」を受けて「仰せどおり」に家業をやめ、居宅に手を加えながら広前を勤めはじめていく過程を示しています。

内田律爾《大うんかの年に豊作》画像パネル


内田律爾《15 歳の浅吉が牛を使う》画像パネル

《教祖遺跡・大新田下の田》画像パネル

《金毘羅宮参拝の記録》画像パネル

第 4 期 広前を訪れる人々とともに

【対象時期】51 歳 : 元治元年 (1864) ～ 57 歳 : 明治 3 年 (1870)

二間四面の宮建築のお知らせから、浅尾藩による出社神号差し止めの指令まで。金光大神が奉仕を始めた広前には、助かりを求め来る人々はもとより、修験者や官憲なども引き寄せられていました。こうした様々な人々との関わりを視野に入れつつ、変化する環境や制度に応じた神勤資格の取得の動きと神のお知らせ、宮建築をめぐる動き、そして「生神金光大神」をはじめとする神号授与の様子を示しています。

樋口一郎《寂光院》油彩・カンバス 本館蔵

《「二間四面の宮建築」のお知らせ》画像パネル

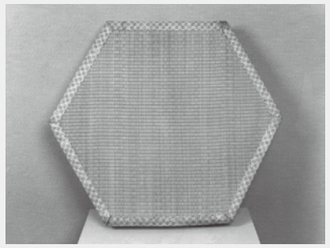
内田律爾《神命で表戸を取り、門は開け放す》画像パネル

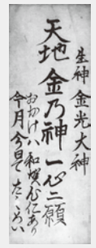
内田律爾《御神命でのぼりを立てる》画像パネル

第 5 期 信心深化の歩み

【対象時期】58 歳 : 明治 4 年 (1871) ～ 64 歳 : 明治 10 年 (1877)

神命による六角畳の撤去から、行政による広前臨検のころまで。金光大神は、既に書き始めていた「お知らせ事覚帳」に加えて、神から出生以降のことを書くよう明治 4 年（「金光大神年譜帳」）と明治 7 年（「金光大神御覚書」）に指示を受けています。日夜の広前奉仕をはじめ、「生まれ変わり」や「天地書附」の確定等の出来事が起きる中、行われていた帳面の執筆の経験に思いをいたしてみます。



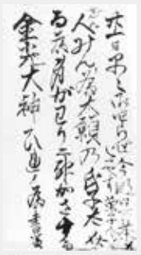

図版左より《六角畳》画像パネル、《申し渡しの覚》画像パネル、 金光大神筆《天地書附》本館蔵

第 6 期 助かりの道の行く先

【対象時期】65 歳 : 明治 11 年 (1878) ～ 70 歳 : 明治 16 年 (1883)

四男萩雄の賀茂神社祠掌就任から、金光大神帰幽まで。村民を中心とした宮建築の動きに関わって、表だった対応を萩雄に任せつつ、神からしばしば意にそわない点を指摘されています。神の意思と食い違う状況に生じるもどかしさ、その後、「広前のことはせがれに任せよ」、「人民のため、大願の氏子を助けるため、身代わりに神がさする。金光大神ひれいのため」とのお知らせに至る過程を追っています。

樋口一郎《黎明の安芸守山》油彩・カンバス 本館蔵


《お知らせ事覚帳 擱筆》画像パネル

作者紹介

樋口一郎〈ひぐち・いちろう、1908 ～ 1971〉

洋画家。玉島町乙島 (現倉敷市玉島乙島) 出身。昭和８年、第 14 回帝展「初秋」初入選。画風は、鮮やかな色彩で描く、明るい風景が特長。20 歳後半に、金光鑑太郎師と親交を結ぶ。

内田律爾〈うちだ・りつじ、1890 ～ 1979〉

後月郡木之子村 (現井原市) 出身。昭和 19 ～ 27 年、金光中学校 (現金光学園中学高等学校) 校長。昭和27～42年、金光図書館長等を歴任。昭和15年、金光教教師補任。展示作品は、金光図書館の求めに応じて、晩年に描かれたもの。